第9回（令和7年度 第1回）天竜川水系流域委員会

議事要旨

日 時：令和7年5月20日（火曜日）15：00～16：30

場 所：浜松河川国道事務所 2階第一会議室（オンライン形式）

1. 開会

開会挨拶（中部地方整備局 浜松河川国道事務所長）

今回の流域委員会の趣旨説明（中部地方整備局 天竜川ダム再編工事事務所長）

2. 挨拶

委員長挨拶

3. 議事

1) 天竜川水系流域委員会規約改正について

- 規約（改正案）について了承された。

2) 天竜川水系河川整備計画の点検

・直轄河川改修事業の進捗状況【資料-1】

- ・高森町山吹地区 MIZBE ステーションについて、消防署が設置されることとなっているが、洪水時に機能が損なわれることがないことを確認しているか。また、地震による液状化等で機能喪失することが無いよう検討を進められたい。
⇒（事務局回答）洪水に対しては、想定される最高水位に余裕を見込んだ高さで整備をすることから浸水によって機能喪失はしないことを確認している。また、地震による影響については今後、調整していく中で確認していきたい。
- ・下流部の河道掘削は、生態系への影響の観点から掘削形状の検討がなされているか。また、最近の基本方針、整備計画では環境の目標や生物多様性の目標に関する定量的な目標を持つようにとの国の方向性が示されているので、天竜川としての方針を明確化することが重要である。
- ・国道1号より上流にはアユの産卵場があることから、河道掘削を行う際に、アユの産卵場に適した砂利を残す配慮やワンドの再生も期待している。
⇒（事務局回答）施工に際しては、漁業関係者や有識者等へアユの産卵場や河床材料、ワンド等現地の特徴を確認しながら掘削形状を工夫していきたい。
- ・河道断面を拡大する人為的な河道掘削だけではなく、導流堤の設置によって砂州をコントロールするなどして自然の営力により河道形状を維持することはできないか、また、シミュレーションを活用し、河道形状の変化を確認することはできないのか。

⇒（事務局回答）シミュレーションを活用した河道形状の変化については今後検討していく。天竜川は総合土砂管理計画の検討を進めており、自然営力を活用した河道形状の形成維持を検討し、現場へ反映していきたい。

- 直轄河川改修事業の進捗状況について了承された。

・治水機能増強検討調査の状況【資料-2】

- ・治水機能増強検討調査の状況は、どのような段階となっているか。
また、治水機能増強検討調査では、事前放流をどのように取り扱うこととしているか。
⇒（事務局回答）治水機能増強検討調査は、今年度から調査を開始しているところ。
事前放流とは、ダム計画以上の洪水が予想される場合に利水の事業者に支障を与えない範囲で、利水容量の一部を放流することでダム計画以上の洪水調節量を確保するもの。
治水機能増強検討調査において、事前放流の効果がある場合には、計画的な洪水調節としての取り扱い方法を検討することになると想定している。なお、効果が少ない等で、さらに洪水調節機能の強化が必要な場合は、既設ダムの放流能力の増強・堤体の嵩上げ、新設ダムに関する調査・検討を行うこととする。

- 治水機能増強検討調査の状況について了承された。

・天竜川ダム再編事業の進捗状況【資料-3】

- ・現時点の計画として定まっている事業内容と今回の検討段階の有力案と両方の資料があるので誤解が生じないように留意されたい。
⇒（事務局回答）現時点計画での天竜川ダム再編事業の事業内容と、今回委員会で説明した検討段階の有力案とでは、誤解を生じないようにその違いを説明していく

- ・恒久的な堆砂対策でベルトコンベヤを用いてダム下流ストックヤードへ運搬する土砂量の約 28 万 m³/年はどのように決められた土量なのか。また、土砂還元によってダム下流河川への影響をどのように想定しているのか。

- ・総合土砂管理計画で想定している粒径別の土砂量との整合は図られているか。
⇒（事務局回答）天竜川ダム再編事業によって新たに確保する洪水調節容量を将来的に維持するために必要となる湖外搬出土量は、現状での砂利採取等も含めて約 69 万 m³/年と推定している。その約 69 万 m³/年のうち、約 28 万 m³/年を下流河川へ還元することで、土砂移動の連続性を確保し、海岸侵食の抑制に寄与できるものと考えている。

また、下流河川へ土砂還元する影響については、土砂還元を行う洪水規模や土質、施設運用方法によって、堆積や濁りなどが変化すると考えられるため、総合土砂管理計画の趣旨に則り、今後、施設運用等の検討を進めていく。

- ・近年、天竜川で渇水が増加する中で、利水容量の買い取りにより貯水容量が減るように見えるため、利水者や関係機関に対して協議・情報共有をしながら進めてほしい。また、秋葉ダムのスルーシング操作について情報共有をしてほしい。

・下流ではかんがい用水などの利用がなされているので、予備放流などダム運用については発電容量だけを対象としているわけではないなどを丁寧に説明されたい。

⇒（事務局回答）洪水調節は洪水が想定される場合において、貯水位を一時的に低下させて必要な洪水調節容量を確保する予備放流方式の活用を想定しており、洪水調節後の後期放流段階において、一時的に低下させた貯水位を回復させるポテンシャルがあることを実績流況から確認している。

秋葉ダムのスルーシング操作も含めて、今後の操作規則等の策定過程において、利害関係者への情報提供や調整を丁寧に行いながら進めていく。

・貯水池内の浚渫によって生じる濁水への対応は考えているか。

⇒（事務局回答）浚渫に際しては、浚渫場所に応じて汚濁防止膜を設置するなど濁りが拡散しない対策を講じることが一般的であり、陸揚げなどでの丁寧な施工や浚渫土砂の流出防止の工夫と組み合わせて行うなど、具体的な浚渫方法については今後検討していく。

～ご欠席委員からのご意見紹介～

・天竜川の治水安全度の現状や天竜川ダム再編事業の洪水調節効果を一般にわかりやすく説明していくため工夫をする必要がある。

⇒（事務局回答）基準地点など下流河川での水位低下量のほかに、浸水範囲の減少や重要施設や交通網の浸水リスクの解消など、天竜川ダム再編事業での治水効果をわかりやすく説明することで、事業の必要性を広くご理解いただけるよう努める。

・天竜川ダム再編事業の洪水調節有り無しによる基準地点での水位低下効果などの効果を実績の洪水のハイドロを用いるなど具体的にしっかりとPRして行ってほしい。

● 天ダム再編事業の進捗状況について了承された。

3) 今後の進め方について【資料-4】

● 今後の進め方について了承された。

4. 閉会

閉会挨拶（天竜川上流河川事務所長）

以 上